



伊豆沼の夏の終わり

平成28年10月号

調査・研究

ハス刈りロボット開発中

現在、東大、北大、酪農大、財団の研究チームでロボットを活用した植生管理、生物モニタリングの技術開発に取り組んでいます。テーマのひとつに伊豆沼で問題となっているハスを刈り取る、ハス刈り自動ロボットの開発があり、東大の海津裕先生のチームがすすめています。このロボットは刈り取りカッターを船の前方に取り付け、脇に取り付けたオールを回転させて移動します。リモコン操作によって前進、後進、転回が可能です。8月下旬のテストでは、ハスを刈り取りながら船がきちんと進むことが確認できました。また、ヒシの密生した場所では、船外機のスクリューにヒシが絡まって船が進まなくなるのですが、そうした場所でもスイスイすすんでいくのには驚きました。ハスの管理へ向けて期待が高まります。



開発中のハス刈り自動ロボット

伊豆沼・内沼にマガンの初飛来を確認

9月14日、伊豆沼・内沼に今年度初めてマガンが飛来しました。例年よりも1週間早い飛来でした。この日飛来したのは7羽。沼近くの田んぼで羽を休めていました。マガンの初飛来は、宮城県の秋の訪れを告げる風物詩。今年も複数の新聞社やテレビ局で報道されました。



2016栗原市民まつりに参加しました

8月27日(土)に「2016栗原市民まつり」に参加しました。財団コーナーでは、伊豆沼・内沼に生息している魚類や水生植物の展示を行いました。当日は、生憎の雨でしたが家族連れを中心に329の方が訪れ、普段では見られない生き物の姿を楽しんでいました。



魚の手づかみに挑戦！！



魚類の解説を受ける来場者

自然体験講座：伊豆沼漁師体験を開催しました

9月18日に 第6回自然体験講座：伊豆沼漁師体験 が開催されました。小雨の中、多くの方に参加していただきました。水辺のいきもの採集では、伊豆沼の隣にある池でタモ網を使って、植物に隠れているいきものを採集して観察しました。ウシガエルのオタマジャクシやアメリカザリガニ、モツゴ、ヌカエビ、ヤゴ、ヒメミズカマキリなど、多くのいきものが観察できました。ハスの観察では、船で沖に出て間近でハスを観察したり触ったりしました。普段は近寄れないハスも間近で見ることができました。定置網の魚の観察では、伊豆沼に仕掛けた定置網を引き上げ、そこに入った魚やエビなどを観察しました。初めて見るブルーギルやライギョに驚いたり、見た目が似ている魚を見比べたりして観察しました。つかご体験では、両端が開いた筒のような形のつかごという漁具で魚を捕るつかご漁に倣って、簡易的なつかごで池の魚を捕りました。ドロドロになりながらも、上手につかごを使って大型のフナやコイ、ライギョをはしゃぎながら捕まえる姿がみられました。



たくさんの方に参加していただきました



つかごを使い魚捕りできるかな？

伊豆沼・内沼 生きもの図鑑

濁ってしまった沼の中、泥底でそっと生きている貝がカラスガイです。味噌汁に入れると美味しいシジミ貝の仲間ですが、とても大きくなる種類で、大人になると30cmほどになります。また、殻の表面はカラスのような黒い色をしています。内側は綺麗な真珠色です。そのため、工芸品の材料として利用されたこともあったようです。また、タナゴやヒガイといった小魚は、カラスガイの仲間に卵を産み、孵化するまで守ってもらいます。これらの小魚が生きていくためには、カラスガイはなくてはならない存在です。昔の伊豆沼・内沼には、カラスガイやその仲間がたくさん生息していました。しかし近年、沼の水質が悪化し、水中の酸素が足りなくなったため、その多くが酸欠死してしまったようです。比較的酸欠に強い大人だけは、現在も伊豆沼・内沼に生息していますが、酸欠に弱い子供は、見つからなくなってしまいました。カラスガイの子供も育つ、健全な伊豆沼・内沼の再生が望まれます。

減少するカラスガイ *Cristaria plicata* (Leach, 1815)



〈事務局〉

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2

ホームページ：<http://izunuma.org>

Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

E-mail：izunuma@circus.ocn.ne.jp